

幸手市地域福祉計画推進委員会会議における委員からの意見（要旨）

会議名称	幸手市地域福祉計画推進委員会会議
開催日時	令和7年1月9日（木）午後2時15分～午後3時30分
回答者 ※委員長◎	◎瀬川裕史、市川照夫、及川健三、岡野玄

- （１）「子育て応援サークル活動等助成事業」について、地域でも見守り隊などを組織しているが、なり手が高齢化しており厳しい状況である。お金をかけてでも人員を補充する必要がある。サークル活動で小学校の通学の見守りをする人たちに対して、サークルとして立ち上げることは可能なのか。広報活動はしているのか。
- （２）「スーパー健康長寿サポーター、健康長寿サポーター養成講座」とは、どのような活動を行っているのか。
- （３）「さくらマラソン大会事業」について、今年は暑くて足をつったり、痙攣して歩けない人が多かった。医療班を今年並みで確保してほしい。
- （４）「セクハラ・DV被害者対策の推進」ですが、DV件数が他の自治体に比べて少ない。件数が少ないのか、拾えていないのかリサーチをしたほうがよいと思う。件数が半分くらいであり、なぜそんなに少ないのか気になる数字である。
- （５）「家庭児童相談室事業」の相談件数が多く、中には、DV等の相談もある。こどもたちを守るため、しっかりとやっていただければと思う。
- （６）「生活支援体制の充実」について、コーディネーターが6人いるが、全般的な相談にのる方が6人で、お年寄りに関しては社会福祉課等に別の相談員が10名程度いるのか。
- （７）認知症の「早期発見・早期治療への取り組み」について、該当者は何人いるのか。また、どのような活動を行っているのか。具体的な内容が載っていない。適切な評価をするためにも、実績を載せてほしい。
- （８）「幸手市障がい者の福祉ガイドの発行」について、部数が増えているのはお年寄りの数が増えているからという認識でいいのか。内容を見やすく工夫していただいていると記載はありますが。部数が増えただけでは不十分だと思っており、昨年と比較して新しい事業ができたとか、効果がなかった等を載せてほしい。
- （９）「自主防災組織の組織数向上」について、自治体ができることには限界がある。市民の方に自分の身は自分で守ることをアピールしてもらう必要があると思う。

- (10) 「子ども110番の家・スクールガードによる見守り活動の充実」について、スクールガードのなり手が厳しい状況である。地域で議論をしたり回覧をしているが、市でスクールガードの活動についてアプローチや若い方に向けてPR活動を行ったほうが良いと思う。
- (11) 「市内循環バス運行事業」について、循環バスの利用状況について、利用者は増加傾向とあるが、バスを見ると1人～2人もしくは誰も乗っていない。例えば目的地に着くまでに何回も乗り換えをしなくてはならないとか、病院に行くまでに1日かかるところをもう少し合理的にできないのか。病院等に行く便を重点的に増やしていかないと循環バスの問題は解決できない。高齢の方や透析の方などの利便性が有効ではない。医療機関には必ず止まるようにしてほしい。また、増加傾向とあるが、パーセンテージを出してもらえると評価が分かりやすいと思う。
- (12) 国籍や男女関係なく、長く地域に住んでいる方や新しく来た方、近所の方と分け隔てなく交流できるようなまちであればと思う。